相愛大学研究シーズ集

シーズ名	アクースマティック・アートにおける創作と実践研究
所　属	音楽　学部　　音楽　学科
氏　名	永松ゆか

【概要】

録音された現実音を素材とし、電子的な手段を用いた編集を経て創作する「ミュージック・コンクレート」は、フランスの作曲家・音響技師であるピエール・シェフェール（Pierre Henri Marie Schaeffer, 1910 −1995）らによって1940年代後半に創始された。70年代に至り、カールハインツ・シュトックハウゼン（Karlheinz Stockhausen,1928−2007）が唱える狭義の電子音楽（発振器から生成された電子音を用いた音楽）との比較が顕著であったミュージック・コンクレートは、とりわけ楽音以外の噪音を扱うことにより消極的なイメージで捉えられていた。スタジオで制作されるこれらの作品をコンサート会場で上演するための多次元立体音響装置（アクースモニウム）を開発したフランソワ・ベール（François Bayle, 1932−）は、そのイメージを一新するためにミュージック・コンクレートを「アクースマティック・ミュージック」と再定義した。また、ピエール・シェフェールに師事し、アクースモニウムの演奏法を確立した作曲家のドニ・デュフール（Denis Dufour , 1953−）は、新しい技術的発明や領域横断的な思想をもって生み出される現代の芸術表現において、音楽以外の芸術分野も包括した広範に渡る作品群にフォーカスして「アクースマティック・アート」という概念を打ち出している。

ミュージック・コンクレート、アクースマティック・ミュージック、電子音響音楽、電子音楽、ラジオ・ドラマ、ラジオアートサウンドスケープ、サウンド・アート、サウンド・インスタレーションなどメディアに記録されたアート作品群を総称し、今尚生きる概念であるアクースマティック・アートの創作・実践研究をおこない教育活動に還元したいと考える。

キーワード	アクースマティック・アート、ミュージック・コンクレート、電子音楽、サウンド、メディア・アート